



眼科

後期研修

京大眼科での後期修練医研修プログラムでは、原則として1年目は京大病院で、2年目は関連病院において眼科研修を行うこととなります。

★1年目(京大病院にて)

A 基本的研修目標

1. 主要な眼科疾患について学習し、診断能力と治療法を選択する力を養うこと。
2. 眼科一般診療に必要な基本的手技を習得すること。
3. 代表的な眼科手術の理論と実際について学ぶこと。
4. 基本的な眼科手術実技を習得すること。
5. 学会発表を行い論文を発表すること。

B 研修体制

1. 病棟研修
入院患者の受け持ち医となって、指導医のもとで診察、検査、処置を自ら行い、研修期間中に単独で入院患者の診察が行えるようにします。
2. 手術研修
手術室においては受け持ち患者を含め多数例の眼科手術介助を行って、手術基本実技と各手術機器について実地に学びます。一年に2度、豚眼を用いた模擬白内障手術を経験して、白内障手術の基本的手技について学びます。また、指導医のもとで若干例の眼科手術執刀を行うこともあります。
3. 外来研修
外来において複数の指導医の指導のもとで外来患者の診療にあたります。同時に種々の眼科検査法、投薬法、眼鏡・コンタクトレンズの処方等を実地に習得します。
4. カンファレンスへの参加
毎週2回の術前症例検討会に参加して自分の担当患者についてプレゼンテーションを行います。また各専門外来のカンファレンスに参加し、蛍光眼底造影(FAGおよびIAG)、光学的網膜断層撮影、超音波生体顕微鏡撮影などの画像診断について学び、最新の診断方法・治療法について習熟します。抄読会に参加して最新の英文論文に慣れ親しみ

ます。

5. 年十数回、指導医より各眼疾患について講義を受けて、専門的知識を身につけると同時に、最新の知見・治療法について学びます。
6. 国内外の眼科学会および研究会において学術発表、学術論文の作成を指導します。

C 到達目標

1. 一般的診察法

- 1) 眼科診療における診察方法，検査法，治療法を患者および家族に適切に説明しインフォームドコンセントをとれるようになる。
- 2) 眼科として適切な現病歴聴取およびカルテの記載ができるようになる。

2. 眼科基本的検査法の習得

細隙燈顕微鏡検査，眼圧測定，眼底検査（直像鏡，倒像鏡，高屈折レンズと細隙燈による方法），隅角鏡検査，他覚的屈折検査法，視力測定，眼鏡およびコンタクトレンズの処方，調節検査，視野検査（動的，静的視野計），色覚検査，眼位検査，両眼視機能検査，複像検査，眼球突出度測定，角膜曲率半径測定，眼底写真撮影，蛍光眼底造影検査（FAG および IAG），光学的網膜断層撮影，前眼部写真撮影，涙液分泌検査，トノグラフィー検査，眼底血圧測定，網膜電図（ERG）検査，超音波検査（A モード、B モード、および UBM），角膜内皮写真撮影等基本的検査法を理解し，実施およびその解釈ができるようになる。

3. 患者の管理

- 1) 眼科領域における各種薬物の使用法に習熟する。
- 2) 指導医の指導のもとに，術後投薬および処置を指示できるようになる。
- 3) 緊急時に際して必要な検査を独自にできるようになる。

4. 通常診療における眼科的処置の習得

点眼法，洗眼法，薬物の注射（結膜下，テノン嚢内，球後注射），前房穿刺，涙管ブジー，涙嚢洗浄，睫毛抜去，角膜異物除去

5. 眼科手術の基本手技の習得

- 1) 洗顔および消毒法
- 2) 各種眼科手術機械の使用法
- 3) レーザー眼科手術（網膜レーザー凝固，毛様体レーザー凝固，レーザー虹彩切開術，レーザートラベクロプラスティ，レーザーゴニオプラスティ，後発白内障 YAG レーザー切開術）
- 4) 外眼部手術（麦粒腫切開，霰粒腫摘出術，眼瞼内反症手術，翼状片手術，斜視手術）

5) 白内障手術

6. 学術活動

- 1) 国内外の眼科学会および研究会での学術発表を1報以上行うこと。
- 2) 眼科術誌への論文掲載を1報以上できること。

★ 2年目(関連病院にて)

A 基本的研修目標

1. 京大病院での研修知識をもとに外来診察時にきちんと診断を下し、正しい治療法を選択することができるようにします。
2. 的確な時期に的確な手術法を選択できるようにします。
3. 白内障手術、外眼部手術、網膜復位術、硝子体手術などある程度の手術を一人でできるようにします。
4. 自らで主題を決めて学会発表ができるようにします。

B 研修体制

1. 病棟研修

入院患者の主治医となり診察、検査、処置を自ら行います。

2. 手術研修

自らが外眼部手術・白内障手術を行うようにします。また指導医のもとで網膜復位手術、緑内障手術を執刀してもらいます。

3. 外来研修

外来患者の診察、検査を正しく行い、正確な診断を下せるようになっていただきます。適切な治療薬を選択し、必要な時期に手術法の選択ができるようにします。

4. カンファレンスへの参加

積極的に症例検討会や地域の集談会などに参加して発言を行っていただきます。

5. 国内外の眼科学会で発表を行って論文にまとめます。自分の興味のある分野を極めて、自分が得意とする専門分野を確立していくことが重要です。

C 到達目標

1. 患者の術前、術後の管理を正確に行えるようになること。
2. 外眼部手術、白内障手術は一人で完遂することができるようになる。指導医のもとで緑内障手術、網膜復位手術、硝子体手術を行うことができること。
3. 緊急来院患者も含め、どのような患者に対しても外来にて対応することができること。
4. 学会発表1報以上、論文1報以上を仕上げる